令和４年度　通信単位制高等学校「第一学院高等学校高萩校」学校評価報告書

１　学校の特色

第一学院高等学校高萩校は、その教育目標に「社会で活躍できる人づくり」を目指し、一人一人の生徒と向き合い、一人一人の幸福を願い「１／１（いちぶんのいち）の教育」を教育理念に掲げている。生徒をプラス思考に変える独自の意欲喚起教育「プラスサイクル指導」を指導の基軸とし、独自のキャリア教育である「地域全体を“学校”と捉えた教育『コミュニティ共育』」の推進、アンガーマネジメントの手法を積極的に取り入れ、生徒個々の自他肯定感を高め、生徒一人一人の「『もっともっと自分を好きになる』自分づくり」をサポートしている。

そのため、今後の社会の変化を見据えた教育の改革に向けて、生徒の成長度の可視化を目的とした「デジタル自分未来史ファイル（通称：D-FILE）」【成長の軌跡を残す e ポートフォリオと成長の実感を表す独自の「成長度マップ」】に取り組んでいる。

また、教科学習においては、「生徒の学習意欲の向上」と「（基礎）学力の定着」を目的に全生徒にタブレット端末を配付し、第一学院独自の個別最適化・自立型学習法（通称：マイプラ）を展開し、通信制と親和性の高い ICT 教育を推進・充実することで、より多くの学びの利便性と創造性を高めようと努めている。

通信制課程の本校には、スポーツや芸能活動などの夢の実現と学業との両立を目指す生徒のほかにも、不登校や高校中退等を経験した生徒が多数在籍・卒業している。そのような多様な生徒たちが、それぞれの希望する進路を実現できるよう生徒一人一人の「チャレンジ・再チャレンジ」を支援し、すべてを成長実感型とした「生徒の成長度№１」の学校を目指している。

その教育活動の一環として行われている高萩校スクーリングに関しては、令和４年度は約 6,500 名の生徒たちが受講した。通常の面接指導等以外に高萩市民講師による体験学習においても実施され、小さな成功経験を通じ、「達成する喜び（達成感）」や「他者へ貢献する喜び（貢献実感）」を体感させている。

この今までにない経験からの気づきや学びにより、将来の夢や目標を意識させ主体的な学びが育つよう意図している。生徒たちにとっては、第一学院高等学校高萩校が「母校」、高萩市は「第二のふるさと」であり、一生涯の高校生活の思い出として心に強く残るにちがいない。

本校は、創立 18 周年を迎え、11 月の高萩市産業祭と同日には生徒主催でのオンライン参加併用型の文化祭「橙萩祭」を行い、生徒の文化芸術活動の発露の場、仲間との間で共同作業に邁進し達成感・成長実感の機会となっただけでなく、「他喜力」を発揮し、橙萩祭を通じて地域の方々に感謝の気持ちを伝えることができたと感じている。開校準備からこれまで、高萩市民から多大な支援をいただき、現在も学校として顧客への貢献、社会への貢献を進めることができている。今後も、高萩市、並びに高萩市民の方々への感謝の気持ちをもち、更に尽力しようとしている。

本校は、『建学の想い』である「常に素直な心」「夢を意識し、夢を持つ」「達成実感・貢献実感」を深化させ、生徒一人一人に応じた自他肯定感を育む教育（１／１（いちぶんのいち）の教育）、また、生徒の現在と向き合い、「将来の人生を左右する重責を担う」という使命を果たすべく、教職員・事務職員スタッフ全員で“社会で活躍できる

人づくり”に取り組んでいる。

２　学校の現況について

（１）学校名：第一学院高等学校高萩校　　学校長名：川原井　勝雄

（２）課　程：通信制　本科（普通科・総合学科）、専攻科

（３）職員数：(校長・教頭・教諭 180 名・養護教諭 2 名・講師 6 名・事務職員等 39 名)
合計 227 名　　（令和 5 年 3 月 31 日現在）

（４）学習センター30 か所、通学生 112 名、通信生 6,318 名（本科生 6,191 名、専攻科生 239 名）　　（令和 5 年 3 月 31 日現在）

（５）免許状の延所有状況　（令和 5 年 3 月 31 日現在）

国語	34 名	地歴	45 名	公民	41 名	社会	9 名
数学	20 名	理科	13 名	芸術	12 名	保体	18 名
家庭	3 名	情報	8 名	外国語	34 名	実業	8 名
養護教諭	2 名	計	247 名				

（６）生徒数　（令和 5 年 3 月 31 日現在）

・本科（普通科・総合学科）　6,191 名

1 年次　1,557 名(男　723 名、 女　834 名)

2 年次　2,263 名(男 1,056 名、 女 1,207 名)

3 年次　2,371 名(男 1,1103 名、女 1,268 名)

・専攻科（保育通信課程）　239 名

（７）スクーリング

・本科（普通科・総合学科）　参加生徒数　6,268 名(34 回実施)

・専攻科　参加生徒数　247 名(８回実施)

（８）体験学習

参加生徒数　延 6,268 名

講座数　延 391 講座

講師数　延　782 名

３　学校運営状況について

経営体制と学校運営の体制強化を目的に、経営側と学校側の意思疎通を図りながら運営している。「社会で活躍できる人づくりを実現できる最高の教育機関を目指す」というコーポレートビジョンを掲げ、「１／１（いちぶんのいち）の教育」の教育理念のもと、多様な教育ニーズに対応できるよう教育の質的向上に取り組んでいる。

生徒数は本科（普通科・総合学科）が 6,191 名(定員充足率 82.5%）、専攻科が 239 名(定員充足率 11.9%)と前年から本科は 399 名増加、専攻科は 76 名減少となっている。これまでの顧客支持獲得及び経営努力により順調に業績確保をしてきているが、学校経営は少子化の進展や競合する学校間の生徒獲得競争激化により、更なる顧客満足の向上に注力した取り組みが求められる。

株式会社立学校においては、学校法人立学校に比して税制面・私学助成面において圧倒的な差異があり、学校経営の原資は、生徒・保護者の純粋な学資によるところとなっており、不断の経営努力なくして業績確保は難しい。

今後も全国の学習センターとの連携強化を図り、共通して掲げた教育理念「１／１（いちぶんのいち）の教育」のもと、共通の教育像・学校像・生徒像を掲げ、通信制高等学校としての高萩校の指導と付加価値を与える学習センターの指導を、それぞれを指導する教職員・カリキュラム等に明確に位置づけ、より安定した経営のためにも、各教科の指導体制の充実を図ることが求められる。

４　学習指導について

通信制高等学校は、毎日の学習は自学自習が主となり、多様なメディア（①教科書準拠動画を利用した WEB 授業　②放送〔NHK〕視聴報告）を利用した面接指導と高萩市でのスクーリングを直接授業で行っている。

スクーリングでは、単なる一方向の学習指導の場となるだけではなく、生徒にとって主体的・対話的で深い学びの場となるよう創意工夫を凝らしており、その学びが、生徒一人一人の一生の財産となるよう、それぞれが地元に戻ってから人生を豊かにすることができるよう生徒の意欲喚起に努めている。

各教科の報告課題は、レポートとして提出されているが、決められた回数のレポート提出と合格が単位認定の条件の一つである。しかし、なかには途中で提出が滞る生徒もいる。各学習センターに所属する生徒は、学習センターでの教員によるレポート作成支援が重要になってくる。生徒一人一人の学力、生活の実態を的確にとらえ温かみのあるきめ細かな支援、指導が求められる。レポートは生徒一人一人に採点、講評、学習上の注意点等を記入して返却されるが、生徒のその後の自宅学習に示唆を与える添削コメント及びその後の指導の充実を期待したい。

特区のため制約される中でも、引き続き教育の質を担保できるようより細かな指導に努めていくことが求められる。

とりわけ生徒により、学力の差が大きいため、基礎・基本を押さえ、個々に応じた課題を明確にし、教育の工夫の必要性があり、個別最適な学びにつながるよう引き続き丁寧な指導に努めていくことが求められる。

単位認定試験については、単位の認定のほか、その後の指導や生徒自身の学習の改善に生かすために、個々の生徒の学習状況等を把握する上で重要な役割を担うものであり、各科目等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、レポートや面接指導等の内容と十分関連づけて実施している。

５　体験学習・生徒指導について

高萩校スクーリングにおいては地域参画の体験学習を、キャリア教育の一環として重視している。「豊かな自然の中」で、「異年齢の地域住民」から生徒が指導を受けることから、さまざまな「気づき」・「実感」が生まれ、将来を前向きに描き、現在の課題に対し意欲的に取り組む態度につなげてほしい。

様々な生産活動やものづくりの体験学習を通じて、それらが現在の私たちの生活や社会の変容に果たしてきた役割や意義について考察し、豊かな生活、社会の創造のため、人々が紡いできた工夫や知恵に気づき、今後の自分の生き方、在り方を考える指針を表現し、主体的に他者とかかわり、よりよい人生を歩むための学びにプラス思考で向かえるようにしている。

年次を積み重ねることにより学びの蓄積・発展となるよう、農林業等に関わる体験活動を分類（食料としてのものづくり〔農業生産・消費〕、生活を支えるものづくり〔実用品・工芸品〕、生活を豊かにするものづくり〔新たな商品価値〕）とし、生産・消費から新たな商品価値創造までの流れを知ることができるようにしている。生徒の取り組みは、個々に差はあるものの、全体的には意欲が見られ態度も良好である。今年度で開校 18 年目になり、以前に経験したスクーリング時の実体験を通して、達成実感・貢献実感・成功実感・失敗体験等の積み重ねにより、生徒一人一人が様々な「気づき」から、態度にも変化が現れてきている。今後も本校の目指す「社会で活躍できる人材の育成」の実現に向けて、さらに努力することが求められる。

体験学習で連携するＮＰＯ法人「里山文化ネットワーク」においても、様々な工夫がなされ生徒の意欲付けに努力されている。職業として長年従事してきた、特に農林業等の分野で豊富な経験をもつ高齢者やボランティアが中心となり指導にあたっている。

今後も継続的・安定的に活動できるようＮＰＯ法人「里山文化ネットワーク」と連携を図り、科目の充実、講師の確保・養成に努めていくことが求められる。

通学生は、茨城県県北地区（高萩、北茨城、日立）在住の生徒が半数以上を占め、茨城県央地区や福島県浜通り地区（いわき市等）の県外からも通学してきている。本校通学生には、金曜日を登校日として定め、きめ細かな指導にあたっている。

また、保護者に対して、「里山通信（家庭通信／学年通信）を毎月発行し、学校の目標や方針、教育相談等を知らせることにより、理解・協力を得ている。

11 月には、通学生等が中心となって自ら企画した「第 15 回文化祭「橙萩祭（とうしゅうさい）」を開催した。テーマ：「一人一人に想い出を～感謝を紡ぐ橙萩祭～」には、生徒の、「コロナの時期が何年も長引いているが、だからこそ参加した人、一人一人の想い出にし、来年も再来年も、地元の人への感謝の言葉をずっと紡ぎ続ける」という想いがあり、そのテーマを自ら体現、文化祭はオープンスクールも兼ね、訪れた方（オンライン参加も含む）に模擬店での接客、販売体験、展示作品やプレイルームのアテンド等、積極的に活動する生徒に共感がもてた。また、地域からの参加者（第 15 回橙萩祭オンライン参加を含む来場者 188 名）もあり、高萩市産業祭にも生徒が出向き、高萩市君田地区で栽培した大ぶりの大根をＮＰＯ法人「里山文化ネットワーク」の方と生徒が協働で前日に収穫し、販売したところ、盛況を呈した。生徒も限られた時間の中で、懸命に取り組んだことによって生まれた自信と達成感は、今後の人生において大きな財産となると同時に、更なる「他喜力」の発揮につながっている。

生徒指導面では、昨今のソーシャル・ネットワーキング・サービスの多様化、インタネットの低年齢利用化はどんどん進んでおり、情報モラル・リテラシー教育が重要であると認識しており、更なる実効性にある取り組みが求められる。

６　スポーツコース（サッカー部）について

平成 19 年 4 月にスポーツコース（サッカー部）を創設しているが、創設の目的として、一つには、本校には不登校や引きこもり、高校中退等の挫折を経験した生徒が多い中で、サッカー部の仲間が活躍することにより全国の在校生や卒業生に元気と勇気を与え、母校に誇りを持ってもらいたいということをあげている。また、時間的制約の少ない通信制課程である点を有効に活用し、サッカーを通じて夢の実現を果たしたいという若者の

チャレンジの場の提供となっている。その趣旨で株式会社立高校として初めて高体連に加盟を認められ、全日制高校生と同じ大会に参加している。

本校サッカー部は、チームコンセプトに学校設置会社である株式会社ウィザスの「６つの実践（肯定的思考・信頼・素直な心・考え抜く・感謝・尽力）・「４つの全力」（準備・頭・心・体の全力）を掲げている。また、本校の教育活動のベースである意欲喚起教育「プラスサイクル指導」をサッカー部にも取り入れている。「プラスサイクル指導」は、「楽しく意欲的に取り組む」「自分のためではなく自分以外（普段支えてくれている人たち）を喜ばせるために頑張る」「意識的にプラス思考を心がける」と脳の働きが活性化する、という最新の脳科学の研究成果を生徒指導に活用したもので、生徒自身が自分を意欲喚起していく力を引き出すものである。

これを通じてサッカー部の生徒たちは、チームの目標を明確化し、「厳しい練習をワクワク楽しむにはどうしたら良いか？」「今のピンチをどうしたら乗り越えられる？」といったことを、プラス思考で前向き・意欲的に考えるようになってきている。

目標達成をワクワクとイメージし、また、自分たちのためだけでなく、普段支えてくれている人たちに喜んでいただくために一致団結し、平成 22 年度第 89 回、平成 23 年度第 90 回全国高校サッカー選手権茨城県大会では 2 年連続で準優勝、平成 26 年度第 93 回全国高校サッカー選手権茨城県大会では初の優勝と全国大会出場を果たし、平成 27 年度第94回全国高校サッカー選手権茨城県大会では2年連続の全国大会まであと一歩の準優勝を果たすことができた。

11 月に開催された FIFA ワールドカップカタール 2022 メンバーには本校卒業生 4 名（酒井　宏樹、山根　視来、伊藤　洋輝、久保　建英）が選出され、中でも本校サッカー部出身の山根　視来の活躍にはサッカー部生徒のみならず、卒業生、他の在校生の大きな刺激になった。

サッカー部では、年間を通じて、試合期・トレーニング期など、サッカーのスケジュールに合わせた生活を送っている。日中にトレーニングをし、通信制の特色を活かしたフレキシブルな日課で学習時間の確保を行っている。また、地域でのボランティア活動を通じた人格形成を行うとともに、あわせてサッカーを極める知識など、アスリートとして必要な専門的なスキル・知識も学んでいる。

35 名の部員が下宿生活（下宿以外は自宅通学）を送りながら、専属監督のもと専門のコーチ・スタッフ陣と選手たちが一丸となって練習を重ね、また、本校職員の日常指導のサポートを通じて、創部 16 年目ながら着実に力を付けてきた。

令和 4 年度は、部員数 56 名（3 年次 14 名、2 年次 22 名、1 年次 20 名）となり、高校クラブ活動としての土台作りに対し活気ある実践ができた。また、コーチングスタッフもＪリーグトップ GK コーチ、そして大学日本代表スタッフの 2 名のコーチに加え、下宿生の生活面をサポートする 2 名の寮監のもと、IFA リーグ 1 部で着実に力を取り戻し、一層の強化並びに強豪復活への活躍が期待される。

本校のシンボルであるサッカー部の活躍が、高萩市・高萩市民はもとより全国で学ぶ本校生徒、また全国の通信制高校生に大いなる元気と勇気を与えることを実現すべく、さらに部活動外の日常生活においても規律礼儀・自治自律独立・和衷協同を磨き日々精進していく必要がある。

■令和 4 年度における戦績

高円宮杯 JFA U-18　サッカーリーグ 2022（IFA リーグ 1 部）	第 7 位
令和 4 年度茨城県高校サッカー新人大会トーナメント	準決勝敗退（ベスト 4）
第 101 回全国高校サッカー選手権大会茨城大会トーナメント	準々決勝敗退（ベスト 8）
令和4年度全国高校総体サッカー競技茨城県大会トーナメント	3 回戦敗退
令和 4 年度関東高校サッカー大会茨城県大会トーナメント	準決勝不戦敗退(ベスト 4)

７　10 年後をイメージするキャリアサポート

第一学院高等学校　高萩校は、生徒の社会での活躍を願い、高校入学から 10 年後の 25 歳を進路定着の目安と考えている。高校での 3 年間で見つけた夢や目標の実現につなげるため、進路定着を意識した在学中の指導や卒業後の継続したキャリアサポートを行っている。

グループ内に、新潟産業大学およびその通信制課程のネット大学®managara を置き、その他にも就労移行支援事業も行い、社会での自立を図っている。

８　「高萩市教育特区」における経済効果等について

第一学院高等学校　高萩校は、平成 17 年 4 月に開校し、丸 18 年が経過した。また、先般の東日本大震災で高萩市は大きな災害に見舞われたものの、10 年以上経ち、市民関係者の尽力で復旧もだいぶ進み、元の姿に戻っている。しかし、福島第一原発事故の影響に加え今般の新型コロナウィルス感染拡大もあり、本校スクーリングに参加する生徒の不安を完全に払拭はできていないが、万全を期した体制で本校スクーリングを実施した。（平成 28 年度は放射線教員研修会を開き放射線に対し科学的な理解を深め、屋外場の除染を一部実施し、平成 30 年度後期から屋外での体験学習を実施。令和 2 年度は新型コロナウィルス感染防止対策として、検温・マスク着用・フェイスシールド着用・アルコール手指消毒・飛沫感染防止のためのアクリルパーテーション設置に加え、玄関へのアラーム付き体温感知サーモグラフィの設置、生徒登校前日に校舎内の次亜塩素酸ナトリウム希釈水による洗浄を実施。全生徒・教職員に健康管理アプリを導入し体調管理の可視化を図った。）

特に本校スクーリング時に体験学習を行う NPO 法人「里山文化ネットワーク」との連携や、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、感染防止に留意しながら縮小して本校独自に実施した「高萩駅前ロータリー清掃」「国道 6 号・国道 461 号・県道 10 号側道清掃」でのボランティア活動等は、地域活性化及び地域振興につながっている。

経済効果全体については、市の税収、施設等の賃借料及び使用料、講師料、学校施設維持管理経費、教職員の日常生活費などで、約 3 億 8,600 万円（一昨年度比 2 億 1,800 万円増）となっている。

（参考）

卒業生進路状況（令和 5 年 5 月 1 日　学校基本調査より）

卒業生　2,250 名

進学	・大学	543 名
	・短大	44 名
	・通信制大学	191 名
	・専門学校	669 名
	・専修・各種学校	6 名
	・高等学校専攻科	1 名
	・公共職業能力開発施設等	10 名
就職		296 名
その他		490 名（受験浪人生や在家庭者）